

「減災」に取り組もう

皆さんは「減災」という言葉をご存じですか？「防災」が被害を出さないことを目指す取り組みであるのに対し、「減災」とは、被害が起こることを想定した上で、いかに被害を少なくするかを考えるものです。今回は、この「減災」について取り上げます。

『減災』という考え方

近年、災害に対する備えとして、「被害を出さない」ことを目指すのではなく、「災害による被害をできるだけ

け小さいものにとどめる」ことを目指す考え方として、『減災』という取り組みが各地で行われています。

『減災』は、『防災』に対する新しい考え方で、近年用いられるように



災害はいつどのような形で起こるか予想がつきません【松川の氾濫で破壊された市道山後線(西根地区・大更)、平成25年9月16日】

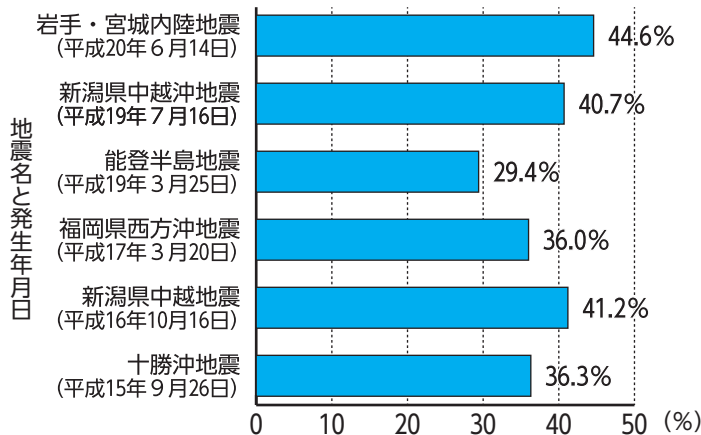


図1 近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合【出典：東京消防庁「家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック(平成25年8月)」】

なった言葉です。地震や津波などの自然災害は避けることが難しく、被害をゼロに抑えることも非常に困難ですが、被害を少しでも減らすことは可能であり、今からでも取り組みることができるという発想に基づいています。

一番身近な減災とは？

では、私たちにできる『減災』にはどのようなものがあるのでしょうか。地震を例に考えてみると、まず第一に挙げられるのが、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」です。

上の図1は、近年発生した地震で、家具類の転倒などが原因でけがをした人の割合を表したものです。この図から、震災時のけが人の約30%が、家具類の転倒などを原因としていることが分かります。

つまり、震災時のけがを防ぐためには、家具類の転倒・落下・移動防止対策が最も有効な手段といえます。

その対策としては、次のようなものが挙げられます。

▼たんす・食器棚・本棚などは、ポール式器具やL字金具を使い、天井あるいは壁と固定する。

▼主なメーカーの冷蔵庫の後ろ側の上部にあるベルトの取り付け口や取っ手に転倒防止用ベルトを通し、壁に金具などで固定する。

▼テレビやパソコンは、粘着式マットやストラップ式の固定器具を使い、テレビ台や机に固定する。

この他にも、寝室や子ども部屋にはできるだけ家具を置かないようにしたり、万が一家具が倒れたとしても入口をふさがないように向きや配置を変えたりするという対策もあります。この機会に、家族で家の中を確認してみましょう。

生活用品を備蓄しよう

大災害が発生すると、水や電気、通信などのライフラインが停止して

安否確認のポイント

- 安否確認には、「171災害用伝言ダイヤル」「web171災害用ブロードバンド伝言板」などのサービスを利用しましょう。
- 同時に被災しにくい、離れたところに住む親戚や知人を経由して連絡が取れるような方法を決めておきましょう。
- 自宅や家族の学校・職場の近く、通勤・通学途中にある避難所の場所を確認しておきましょう。

▶171災害用伝言ダイヤルの利用方法

◎被災地(メッセージを残す)

- ① 171をダイヤル
- ②「1」(録音) を選ぶ
- ③自分(被災地)の電話番号をダイヤル
- ④メッセージの録音

◎被災地外(メッセージを聞く)

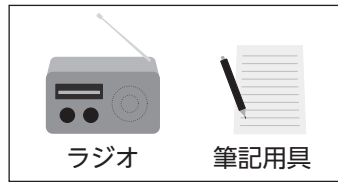
- ① 171をダイヤル
- ②「2」(再生) を選ぶ
- ③被災地の人の電話番号をダイヤル
- ④メッセージの再生

詳しくは、(一社)電気通信事業者協会のホームページ(<http://www.tca.or.jp/infomation/disaster.html>)をご覧ください。

図2 準備しておく便利なものや備蓄のポイント

■自分にに関する情報…身元や連絡先を記したカードや診察券など

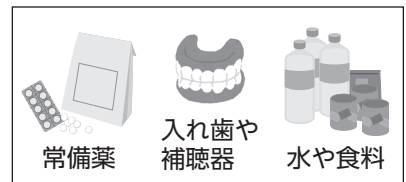
■状況を把握するためのもの



ラジオ

筆記用具

■無ければ困るもの

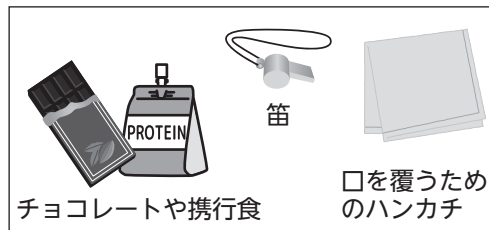


常備薬

入れ歯や補聴器

水や食料

■閉じ込められた時のために必要なもの



チョコレートや携行食

笛

口を覆うためのハンカチ



備蓄のポイント

▶防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中に組み込んで、平時に無意識に更新されるものでまかないましょう。安価でどこでも入手しやすいものでないと、定期的に更新したり、分散して置いたりすることができません。

▶ティッシュやトイレットペーパー、ラップ、アルミホイル、大型ごみ袋、水のペットボトルなどは、ある程度の量を蓄え、古いものから順に使い、日常生活で買い足していきましょう。

安否確認の方法知ろう

災害は、家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。自分の状況を自分から家族や知人に知らせるとともに、家族の安否を確認することが重要です。

家族がバラバラにいるときに災害が発生したときに備えて、安否確認の方法、集合場所など決めておきましょう。安否確認のポイントをページ左上に示

しまふ可能性が大きくなります。『滅災』で被害を抑えた後、復旧までの間、自宅で生活できるように水や食料、生活用品を備蓄しておく安心です。図2に、準備しておく便利なものや備蓄のポイントを示します。参考にしてください。

家族などと話し合いを

今号で紹介した『滅災』のための対策は、ほんの一例です。その他にも多くの方法がありますので、家族で話し合うことはもちろん、近所の人や地域で『滅災』に取り組んでみましょう。

します。確認してください。また、被災地域に電話が殺到すると、回線がつながりにくくなり、消防や警察などの緊急連絡に支障を及ぼすことにも配慮しましょう。

「一日前プロジェクト」って何？

内閣府が行っている「一日前プロジェクト」という事業があります。

この事業では、「もし、災害の一日前に戻れたら、あなたは何をしますか？」ということをテーマに、全国各地の被災された人たちに、当時の行動や思いなどを話していただき、災害体験のない人にとっての『教訓』や『気付き』につながるエピソードを作成し、紹介しています。

下のURLアドレスでさまざまな体験談が公開されていますので、ぜひご覧ください。

▶一日前プロジェクト(<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/>)